

2022年4月29日

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
量子生命・医学部門 放射線医学研究所所長
山下 俊一 殿

NPO 市民科学研究室 低線量被曝研究会
上田 昌文 柿原 泰 瀬川 嘉之 田口 茂
永井 宏幸 林 衛 吉田 由布子

回答送付先 永井 宏幸
nagai.koko@gmail.com

813-0005 福岡市東区御島崎 1-19-401

再 質 問 書

2月14日の質問書で、放医研の「放射線被ばくの見聞録」が100mSv以下の放射線被ばくの見聞録について触れていないのは、100mSv以下で見聞録が明らかでないと言っているのではないかとお聞きしました。その質問に対する回答は「見聞録では、100mSv以下の線量については言及しておりません」とのことでした。

それでは100 mSv以下のがんリスクをどのように受け取ればよいのでしょうか？ 100mSv以下の線量について言及しない説明のしかたでは、がんリスクが増えていないと受け取る人もリスクがあるかどうかは分からないと受け取る人もでてくるのではないですか？ 放医研が示した見聞録を一般の市民・国民がどのように受け取ることを、見聞録を公表している放医研として期待しているのでしょうか？

見聞録は「図としての見やすさから文章量は最小限とした」という説明がありましたので、それでは放医研としての見解をお聞かせください。また、4項目の各質問についても見聞録は別にして放医研の見解をお聞かせください。